

I 概説

アンケート回答内容を質的な側面から把握し、将来のCVVのあり方の方向性なりのヒントを探るため、自由記述を分析して見ることにしました。各々の自由記述の内容をカード化して、企画運営委員会のメンバーがKJ法的分析作業を行いました。

こうして記述内容を詳細に見ていくと、CVVに対する多角的な見方、感じ方があぶり出されてきて非常に興味深い結果が得られたように思われます。

概ね、次のような回答内容に分類することができました。

1. CVV に対する賛成意見
 - (1) 一般的な賛成意見
 - (2) 賛成の具体的意見
2. CVV に対する全般的な疑問や課題提起
 - (1) 全体的な疑問・課題提起
 - (2) 個人的な問題点
3. CVV の組織運営のイメージ
 - (1) CVV の役割
 - (2) CVV の社会的位置づけ

II 回答内容の紹介

1. CVV に対する賛成意見

(1) 一般的な賛成意見

この提案に対して、回答者の 80% 程度の賛成の意思表示がありました。

まず、特別の意見主張までは持たないまでも、趣旨に賛同し、機会があれば、そして時間ができれば社会にお返しをしたい、役に立ちたいという総論的な賛成論が表明されています。

(2) 賛成の具体的意見

次に、このアンケートの段階でさらに社会的貢献の中味をイメージした賛成論が、かなり表明されています。

① 技術的貢献

当然のことながら、まず、専門的知識・経験による社会的貢献の意義について賛意を表明するものが沢山ありました。

「長年、培ってきた技術や知識を埋もれさせるのはもったいない。それを活かして社会に恩返ししていくのは、高齢化の進む中でまだ身心とも元気なOB技術者の義務でもあるのではないか。そしてそれは、自身の生き甲斐にもつながって行くのではないか。しかし、一方で技術力が心配なので、進歩する技術習得もしながらでも、参加したい。」

② その他の貢献

官公庁退職後の第2次就職先の営業マン的処遇の中で失われていく技術力に不安、不満を感じたり、その中での何らかの可能性を探る気持が表明されています。

また、一般的に、リタイア市民の市民社会の中での役割論からの認識が表明されています。

2. CVV に対する全般的な疑問や課題提起

基本的に賛成のスタンスに立ちながら、CVV に対する素朴な疑問からはじまり、どんな組織なのか、その意義役割、関るべき技術の領域などかなり積極的な意見が述べられています。

(1) 全体的な疑問・課題提起

① 素朴な疑問

活動の具体的内容がわからないという疑問、元の組織から離れた活動ができるかどうか、ロビイスト的存在になりかねない、官側の理解度に対する危惧等が表明されています。意見の数は多くはないが、この問題は、CVV の社会的スタンスの問題と微妙に関る問題でもある基本的な命題のような感じがするところです。

② どんな組織をつくるのか

まず、社会的にオーソライズされること、OB の活動の受け皿組織、精神論でない適切なルールと組織づくりが重要などを指摘する意見が出されています。社会のどのセクターに関係するのか、例えば町会などの自治組織と関係を持つのか、また、今の日本の行政主導型、それに反対する組織的対立の構図の中での中立性を疑問視する意見も出ています。その中で、行政、民間企業、市民団体の双方からの認知の必要性と土木学会の関与の可能性についての課題提起がされています。また「この活動は、本来的に無償であってはならないのではないか」という意見も出されています。

組織の構築、運営等にかかわる命題につながるもののような感じがしています。

③ 技術・経験継承の必要性

土木工学が、とりわけ基本技術と経験技術であるといわれることから、成功、失敗ともに継承していく必要性を強調する意見が多く出されています。今の子供たちにこの道を歩んでほしい、そのための PR 活動の重要性が指摘されています。

④ かかわるべき技術の領域

CVV が関る技術の領域のイメージが幅広く出されています。地球環境レベルの環境問題へのコミット (ISO14000 への取り組みなど)、社会基盤整備、まちづくり、風景づくりなど。また、震災の経験から、地域の防災に関する活動として、危険個所の発見、通報等への貢献の可能性についての意見などが表明されています。

(2) 個人的な問題点

一方で、個人的な不安感が表明されています。技術進歩と自分の技術力に対する不安感がいくつか出ています。実務の基本姿勢心構えなどについての助言ならできるのだがという意見もあります。

また、今は勤めがあって時間的制約があるが退職後は参加したいという意見が多く出ています。体力についても心配の気持ちも表明されています。

3. CVV の組織運営のイメージ

ここに集約した意見では、まず基本的哲学について述べ、役割のいくつかのキーワードが提出されています。その上で、特に中立性、第三者性の重要性を説く意見、行政に対する補完的サポート、地域住民との連帯性の構築等のスタンスが提案されています。

(1) CVV の役割

CVV の活動について、「専門知識による貢献ということも重要だが、幅広い知見と哲学を活かすことが大切だ」という意見があり、基本的スタンスとして、官と民の“通訳”“ご意見番”的な役割をイメージする意見が多く提出されています。

(2) CVVの社会的位置づけ

①中立的または第三者性の必要性

特に、行政と市民の間に立つ第三者的立場を強調する意見がかなり多く提出されていることが目立ちます。何人かの人々が、よい社会資本を残すためには地元と行政の間に立つて“橋渡し”的役割を果たす行政の姿勢と住民のエゴの関係の判定、仲介役などの可能性を示唆しています。そしてそれが技術屋の社会的地位の向上につながるとも述べています。「公共事業は個人の権利に関する問題が多いので、活動のボランティア活動としての位置づけを明確にしておく必要があるのではないか」との指摘もあります。

②行政補完の役割の可能性

「今後は、(地方分権の進展にともなって) 地方自治体の発注する事業が多くなることが予想され、工事の施工管理、品質管理などベテラン技術者を多く必要とするのではないかと、今でも必要かも知れない。また、公務員の人員削減がいわれている状況で、こうした行政需要に対応することが必要ではないのか、こういう意味での行政補完の役割が考えられる」との意見がありました。

③地域社会との関係の重要性

行政側からの計画ではなく、一般市民が行う公共事業の計画の検討に参画し協力していく立場、偏見をもった市民運動の矯正役、地域社会の相談役など地域社会との接点を特に重要とする意見も少なくはないようです。

③情報機能の必要性

「いったん退職してしまうと、学会・業界・技術等に関する情報が乏しくなるので、情報センター的な役割が必要、これは先の技術的遅れに対する不安感の解消のためにも必要となるのではないか。」

III 今後の課題

以上の分析結果から、いくつかの課題を見いだすことができます。

- CVVの社会的位置づけを、どのあたりに位置づけるのか。やはり、土木の対象とする公共事業、社会資本整備について考えるなら、行政・地域社会のどちらにも偏することのない中立性(第三者性)を最重要の理念としてもつことが大切なのであらうと考えられます。
- であるとしても、CVVがコンサルタントなのか、人材派遣組織なのか、研究機関(シンクタンク)なのか、交流サロンのモノか、まだそういったイメージがこのアンケートでは出ていないので、これからの模索が必要であると思います。
- アンケート結果から、CVVに対する受け皿機能としての期待度が高いので事務局体制の早急な構築が必要であると考えられ、スタッフ・場所・相応の資金調達など具体的な検討が必要だと考えます。
- この組織は、名前が示すように基本的にはボランティア組織であるが、事務局運営など、当然相応の資金が必要であり、会員会費制、サービスに対する対価を設定し運営するなど、NPOとしての(法的)位置づけ、資金確保、組織化などの方策の研究が必要となるでしょう。
- 中立的第三者機関として、多様な課題に関わるとすれば、土木技術をめぐる諸問題に対応する必要性も予想できるので、事情のわかった弁護士、会計士などの顧問的連携も必要ではないでしょうか。
- マルチメディア-インターネット・ファックス(最低限)-などを積極的に利用したサイバーネットワーク型の組織づくりを目指すべきだと考えます。(高齢者のボケ防止?)